

「新しい旅のスタイル」に対する主な意見

1 有識者・専門家等の意見

- ・小さい範囲からでも経済を動かしていかないと、いつまでも始まらない。
- ・感染症予防に資する旅行スタイルを構築していくことは全体的な施策の方向性とも合致する。
- ・宿泊施設が安全・安心であるということをしっかりと利用者に伝えることが重要。広報に力をいれるべき。

- ・しっかりした枠組みで、これだけ慎重にやるということであれば問題ないと思う。
- ・止める基準をしっかりと定めておくことは重要。
- ・小さな施設にも効果があるようにしたほうが良い。
- ・感染者が増加しそうな地域は早めに抑えて、落ち着いているところは少しずつ経済を動かしたほうが良い。
- ・最初のうちは厳しく運用していくのが良いと思う。
- ・利用が開始されると色々な疑問が出てくると思うので、Q & Aがあると良いと思う。

- ・大方、内容については了解。
- ・最近の感染状況を見ると、札幌ははずしたほうが良いと思う。

- ・制度に反対ではない。「新しい旅のスタイル」の啓発ということでは理解。
- ・札幌とそれ以外の地域では、施設職員の感覚、意識は異なる。
- ・事業開始は、病院関係者や高齢者のワクチン接種との兼ね合いを考慮すべき。
- ・需要喚起の側面を打ち出すには時期尚早。
- ・利用者に対する実効性を確保することはなかなか難しい。

- ・感染者が増えたら止めるなどして進めていく必要がある。
- ・まちぐるみで安全・安心な観光ができるように、宿泊施設の従業員に対するPCR検査など地域の感染症対策を支援すべき。

- ・事業者には手続き面を含め新たな負担が生じないように配慮してほしい。
- ・家族、域内といった制約のない「どうみん割」の再開につなげてほしい。

- ・事業内容を利用者にはっきり伝えてほしい。
- ・現場（宿泊施設）の気持ちが緩まないような取組をお願いしたい。

- ・停止条件は明確にするべき。
- ・圏域の限定は、徐々に解除していくべき。
- ・事業者とは意見交換を行うべき。
- ・曜日ごとの客数平均化を図るため、将来的には平日のみ割引率増などの対策も必要。

- ・域内の宿泊旅行に限定してモデル的に実施するという考え方は理解する。
- ・年度末や年度始めを避けるなど開始時期を慎重に判断することも必要ではないか。
- ・実施を猶予する地域については、道民にわかりやすく伝える必要がある。

- ・対象者の限定、圏域単位については評価する。
- ・部屋食は安全だがbuffetは避ける、テーブルごとに料理を出すなどの工夫が必要。

- ・予約制や時間帯での利用など入浴での密を避ける工夫が必要ではないか。
- ・入浴施設での歯磨き、うがいの注意喚起も大事。
- ・現在の札幌、函館の感染者が増えている中、この事業が原因とならないよう、感染状況によっては、遅らせるのが良い。仕組の中身は良い。
- ・実施するなら感染防止メッセージをしっかりと発信して実施すべき。
- ・別居の家族が申し合わせて合流するのを防ぐような仕組みとすべき。
- ・体調不良者は無理をせず次回にといったメッセージを発信すべき。
- ・基本的には賛成であり、多くの人に利用してもらい、広域での旅行を控えてもらえれば良い。
- ・感染者が明らかに増加傾向のある圏域については実施時期の再考が必要と考えます。
- ・利用者の遵守事項を厳しくして良い。
- ・事業内容の周知徹底してほしい。
- ・地域内や同居者との旅行でという仕組は良い。
- ・GoToではなく、まずは道内・県内からやるべき。
- ・問題なのは道外から来る人や対策を理解してくれない人。制限というよりも、対策を厳しくやっていくしかないと思う。

2 関係団体の意見

- ・この度の事業を打ち出したことは、「どうみん割」の再開につながる取組でもあり評価。
- ・感染状況がさらに減少した際には、速やかに本来の「どうみん割」を再開してほしい。
- ・「感染拡大防止ガイドライン」を遵守し、宿泊者の安心安全対策を徹底して感染防止に取組みながら営業をしている現状を勘案していただき、早期に実施をお願いする。
- ・宿泊業界としては、今回提案のあった「黙食・黙浴」に係るポスター掲示や食事の際の感染防止策の強化など最善を尽くしていきたいので、早期に事業実施願いたい。
- ・札幌市内のホテル・旅館も大変厳しい状況にあるので、札幌市の感染状況に応じた緩和措置や段階的に圏域の解除などお願いしたい。
- ・現在、国で検討されているGoToトラベル再開までの間の、自治体割引については、道も活用し、宿泊施設などの支援事業の拡大に努めてほしい。
- ・マイクロツーリズムの促進を打ち出すのであれば、施策としての効果の意味はある。
- ・この事業を積極的に活用し、マイクロツーリズムを楽しんでいただくようメッセージを発信し、感染防止、観光需要喚起の両面から事業の実効性向上を図ってほしい。
- ・事業期間によって、環境変化に応じた想定すべき対策の前提条件が変わってくるので期間を明示すべき。
- ・コロナ禍の甚大な影響を受けている事業者への支援策であり、新たな負担を課すことについては、慎重にその内容の是非・効果を検証の上、極力回避すること。
- ・圏域内に限定するとはいえ、旅行の機会を増やし拡大を助長することにもなりかねない

事業を企画することは到底理解できない。慎重な判断をお願いします。

- ・ 年末からこの3月まで、観光関係者は耐えてきた。感染者が少ない圏域での小さな旅はいいですよ！というシグナルという意味で支持したい。
- ・ 一方、札幌周辺からのお客さまの需要は計り知れなく、今後、段階的に感染状況を見極めながら、需要喚起策をタイミングよくスタートできる準備を願う。
- ・ 道内の圏域ごとの感染状況を勘案し、事業開始時期については慎重な判断をお願いいたします。